

初めてこのタイトルを聞いた人は、「何じゃこりやつ？」と思う方が大半ではないだろうか。毎年夏の終わり（8月末）に、海水浴場（ムーンビーチ井野浦）の砂浜にステージを組み行われる、アマチュアバンドによる野外コンサートです。このライブ「あっ。」という名前には、新たな発見や驚き、感動が今から始まるという意味があります。しかし、平成10年から始めたこのイベントは、昨年を最後に12年間の活動の歴史に幕を下ろしました。



ステージ組み立て作業

私達「さきがけ橘塾」は、平成7年から地域づくりの一環として、三崎地域で昔から生活の中で使われてきた「青石」に着目し、青石の石垣を保存・継承するため、「青石公園」なるものを作っていました。ある時メンバーから「石積みもいろいろ、若者達で楽しめる何かをやりたい！」という話が出ました。（正直、地味でしんどい石積みにも飽き飽きしていたのが本音かも知れませんが…）話し合った結果、「三崎

らしい自然を活かした野外コンサートをやろう！」と、軽いノリでスタートしました。しかし、地元の建設業者のご好意により無償で足場資材を借りればしたものの、素人が砂浜に巨大なステージを組むことは、そう容易な事ではありません。炎天下、海水浴客を横目に資材の運搬や組立て作業を3〜4日間、夜遅くまで行うのは大変な労力が必要です。

# ライブ「あっ。」を終えて、 新たな旅立ち

さきがけ橘塾 塾長  
増田 克仁



ありませんでした。というか、しませんでした。台風接近や突然の雨で、急きよステージ上にブルーシートを掛けた開催も何度かあります。「せつかく苦勞して作ったステージを無駄にしたくない！野外でやらなくては意味が無い！」そんなスタツフの情熱でやり通してきました。

ライブ終了後には、スタツフと出演者との交流と慰勞を兼ねて、会場の砂浜でパーベキューの打ち上げを行います。夜更けまで続くこの打ち上げをやらなければ、翌日の片付けも肉体的に楽な事は分かっていきます。でもイベントを続けて行くための第一の秘訣は、「とにかく楽しくをモットーに、汗をかいたら飲む！」ことだと確信しています。

また、ライブ当日には、出演者、観客、そしてスタツフ全員が「みんなで楽しもう！」の精神で、照明、司会、演出、運営資金のための屋台など、音響以外の全てを行っていきます。そんな熱い思いが天に通じたのか、この12年間一度も雨での中止・延期や場所の屋内への移動は



また、ライブ当日には、出演者、観客、そしてスタツフ全員が「みんなで楽しもう！」の精神で、照明、司会、演出、運営資金のための屋台など、音響以外の全てを行って

また、ライブ当日には、出演者、観客、そしてスタツフ全員が「みんなで楽しもう！」の精神で、照明、司会、演出、運営資金のための屋台など、音響以外の全てを行って

まちを愛する想いに終わりはありません。また、ここでは言えませんが、今また私の胸の中には、沸々と燃え盛るものが芽生えつつあります。みなさん、乞うご期待！

